

令和7年度 第2回 伊勢市観光振興基本計画推進委員会議事録要旨

日時：令和7年9月12日（金）14：30～16：30

場所：伊勢市役所 東館4階 4-3会議室

出席者：【委員】板井、澤村、久村、谷、藤原、今北、山本陽、小崎、五十子、前田、山本武、高橋、大西（オンライン） 〈敬称略〉

【オブザーバー】北橋

【事務局】（伊勢市）小林、東、中村、山口、西尾

（委託業者：JTB）小島、吉口、藤田、熊澤、葛山

1. 挨拶(委員長)

2. 委員・事務局紹介、出席者報告

委員17名のうち出席者13名で、過半数が出席していることから、「伊勢市観光振興基本計画推進委員会規則」第4条第2項の規定により、本委員会が有効に成立していることを確認。

3. オブザーバー参加の委員賛同

伊勢志摩観光コンベンション機構川上委員の欠席に伴い、川上委員の申し出により、同機構統括チーフ北橋氏にオブザーバーとして本委員会に参加いただくことを承認。

4. 議事

（1）インバウンドの調査結果（速報値）、聞き取り調査の項目検討 資料①②
資料①②に基づき、概要を事務局（JTB）より説明。

<質疑>

① インバウンド調査結果（速報値）報告について

○P20～P24の「前後の立ち寄り先」について、伊勢への前後というのは具体的にどのような意味か。（委員）

⇒一度伊勢市内に入った方が、前後12時間でどこに立ち寄ったかを位置情報で把握している。Wi-Fiアプリの位置情報を元に、最初に接続したポイントから次に接続したポイントへの移動を分析している。（JTB）

○ Japan Travel Bridge の解析方法として、伊勢市内に入った時点からカウントされるという理解で良いか。(委員長)

⇒ その通り。ただし、近鉄の停車中に駅近くの観光案内所の位置情報を拾ってしまう可能性もあり、参考データとして考えていただきたい。(JTB)

○モバイル空間統計の国別カウント方法について。(委員)

⇒ ドコモの位置情報を利用し、契約時の国籍情報でカウントしている。正確には「端末数」という考え方で、台湾国籍で契約された方も 1 カウントとなる。

(JTB)

⇒ 日本に住んでいる台湾人や短期滞在の台湾人も含まれる可能性がある。(委員長)

○性別・年齢だけでなく、グループ別でのクロス集計が必要ではないか。また、団体客と個人客で行動も変わってくると思うので区別することも重要ではないか。

(委員)

⇒携帯を持っている人が 1 人来た、2 人来たという形でカウントしており、グループ単位での把握は困難。(JTB)

⇒推計でも良いので団体・個人の分類は分析していただきたい。(委員)

○伊勢来訪前後の訪問地を分けて分析し、市内の立ち寄り場所と市外を区別すべき。市内を入れると駅や乗り継ぎ地点が多く出てしまう。(委員)

⇒ご指摘の通り、分けて分析を行う。(JTB)

○データ分析における表記の整理と出典の明記が必要。立ち寄り場所の表記が案内所なのか販売店なのか不明確。(委員)

⇒元データは日本観光振興協会のデータベースを使用しており、出典を明記する
(JTB)

⇒立ち寄りスポットが個店名や商品名になっているので、一般に公開した時に誤解を与えるのではないか(委員)

○モバイル空間統計調査について、他事例との比較データを提供してほしい(委員)

② 聞き取り調査項目検討について

○民泊施設や製造小売業等へのヒアリングも必要ではないか。土産物店も製造小売と仕入小売で課題が異なる。(委員)

⇒文化的施設へのヒアリングも重要ではないか。(委員)

⇒再度精査し、検討する。(市)

○インバウンドに強い事業者の選定が重要。伊勢市外に宿泊してから伊勢に来る観光客も多いため、伊勢市外も含めてインバウンドに強い宿泊事業者や観光施設にもヒアリングすべき。(委員)

⇒聞き取りはインバウンドのみのヒアリングではないという理解で合っているか。

(委員長)

⇒相違なし。(市)

○聞き取り事業者数はどのくらいが上限か。(委員長)

⇒ 20 程度を想定しているが、委員の紹介などで市内事業者の協力が得られれば拡大も可能。(市)

○多様な業種の事業者があり課題も様々。おはらい町会議で会員を対象にアンケート調査の実施も可能か。(委員)

⇒計画策定後の推進段階でアンケートを実施する方法もある。今回は新規計画策定のためのヒアリングのため、数の限界はあるが、事務局とも協議しながら、対象事業者案に記載のない関連事業者にも別途意見を集約していければと考えるので、皆様のご協力を賜りたい。(委員長)

○全国標準のアンケート項目をベースに地域特性やトレンド要素を加え、地域の長所と短所を浮き彫りにするために項目を多様化することで、課題の抽出が明確になるのではないか(委員)

⇒アンケートの目的は計画を立てるために活用すること。11 月頃に結果をまとめて提示予定。時間的制約がある中で相談しながら進めたい。(委員長)

(2) 基本理念、ありたい姿、基本方針、KPI 指標の考え方

資料③

資料3に基づき、概要を事務局（伊勢市、JTB）より説明。

<質疑>

○P2の宿泊割合よりも宿泊者数の方が良いのではないか。なぜの部分を書かないと分かりにくくないか。(委員)

⇒宿泊者数も割合も向上が必要という考え方の方が良いのではないか。(委員長)

⇒P2は現在の重要な視点を示し、P6のKGIでは「宿泊者数」を用いる計画。課題の視点でも宿泊者数と宿泊割合を併記し、KGIは宿泊者数で進める。(市)

○基本理念と基本方針の繋がりについて確認したい。(委員)

⇒現行計画では基本理念はありたい姿の上位にあり、基本理念を基にありたい姿を設定し、そのありたい姿を達成するために基本方針がある。新計画でもその体系を踏襲したい。(市)

⇒計画の全体像は整理していただいた方が分かりやすい。書きぶりとして、委員の指摘を踏まえ表現を検討していく。(委員長)

○「常若の精神」「おもてなし」「おかげ様」とは一体何か。(委員)

⇒常若の精神は神宮式年遷宮に向けてこれまでもまちづくりにおいて様々な変化が起きてきた。その根底には常に若々しく瑞々しいまちであり続けたいという思いがあり、それを表している表現と考えている。おもてなしについては、住む人の精神として観光客とより良い関係を築いていくための理念と位置付けている。常若の精神については現行計画策定の際にも意味を議論しており、その結果を計画に記載している。新計画においてもその思いは継続していくべきと考えている。(市)

⇒この計画は観光に関する行政計画ではあるが、伊勢が掲げる常若やおもてなし、おかげは概念に止まり様式として実態を伴っていない。今後4年間の計画を作成する中で、万人が言葉の意味を理解し、京都や金沢のように経済循環モデルとして様式化を図ることができる定義を定めてほしい。(委員)

⇒一般的に誰もが理解できる名詞ではないので、現行計画と同様に説明を加えながら表現していきたい。現行計画の踏襲で問題ないか。(委員長)

⇒その認識で相違ない。(市)

⇒キャプションで説明を付け、伊勢市としての思いが強いものは鍵括弧を付けるなど工夫を検討していく。(委員長)

○基本理念にもある地域一体となった観光地経営に関してはある程度ストーリー立て

て繋がっているのが分かりやすい。また新たな基本方針⑤については、磨き上げも大切かと思うが、観光によるまちづくりのような視点も大切ではないか。伊勢市がエントランスとなり鳥羽・志摩に広げていくという観点で、全体プロモーションを考えるべきではないか。(委員)

⇒観光まちづくりをしていかなないと、地域の誇りや愛着がないと観光客を受け入れるという感情にはならないと思う。観光戦略は地域に住んでいる方の幸せと来られた方の幸せを叶えるまちづくりをしていかなければいけない。その地域をどう変えていくのか、サイクルを作るまちづくりをしていかなければいけない。その思いをどう表現していくのか、経済だけではなくスタンスを落とし込んでいくべきではないか。(委員)

⇒地域の文化と観光を結び付けて、伊勢独自の文化を大切に、基本方針に盛り込んでいくことは大切だと感じる。言葉の表現が難しい中で、伊勢文化に由来する常若やおかげ様という言葉、かみ砕いて伝えていくことは必要。(委員)

⇒前回の推進委員会を踏まえ、事務局として「伝統の継承」、「持続可能なまちづくり」を表現したかったと思われるが、今回の資料に言葉としてしっかりとした案が記載されていないため、共感できないのではないかと感じる。受け入れ側も知識を継承して伝えていくことが大切で課題でもある。継承して行くにあたり、例えば文字索引集を作るなど検討すべきではないか。遷宮を迎えるこの10年がまちづくりとして重要なタイミングなのではないかと感じている。(委員)

○KPIの指標の取り方の中に、訪れていただいた方のKPIはあるが、受け入れる側のKPIも必要なのではないか。市民アンケートのKPIも取っていき、共存し共生するまちづくりを目指すべきではないか。(委員)

○言葉の文言について注釈を添えてほしいと述べたわけではなく、プロモーションとして表現できる仕組みを構築してほしいという意味合いで発言した。(委員)

○まちづくりという言葉を入れるかどうか、文化という言葉を入れるかどうか検討していく必要がある。「まち」という表現、ありたい姿で持続可能なまちづくりとすると良いのではないかと感じる。基本理念のトーンを変えるのであれば、「地域一体となった観光地経営」を、「観光まちづくり」と謳っても良いのではないかと感じる。経営を入れて持続可能性を意識した表現をするという考えもあるのではないかと感じる。

また、「文化」を入れるかどうかに関しては、基本方針案⑤で観光資源の磨き上げに関する言及があるが、「観光文化資源」という言葉は聞いたことが無いので、「文化」を入れないで、か、「文化観光の資源」にするのか検討いただきたい。(委員長)

⇒まちづくりや文化の視点は新計画のどこかに記載する方がよいのではないかと考える

ている。

基本方針⑤は広域連携を意識しているため、表現を変えて③に文化的な要素を入れると良いのではないかと考えている。

また基本方針⑤については磨き上げだけでなく、発掘や新しく造成することも想定した内容と考えているため、表現の変更も含めて検討していく。(市)

○「おもてなし」「おかげさま」という表現についてはわかりにくいところがある。議論していくことで、市民や観光客が一体となって、一つの方向に向かっていけると思う。(委員)

○KPIの部分において、おもてなしの満足度で測れるのかという疑問がある。市民や住民にとって、観光振興基本計画がどの程度寄与しているのかを測れる指標が欲しいと感じた。(委員)

○インバウンドデータを施策に如何に活かすのが大切で、特に人流データから伊勢に來た目的を知りたい。そこから、彼らに対してどうアプローチしていくのかという施策が出てきて、來た人にヒアリングを行い、伊勢の何が良くて、何が良くなかったのかを知ること、次のアクションに繋げて行くことが重要。次回の調査の中で、明確にしていきたい。(委員)

○今回ありたい姿に「チャレンジ」という言葉を採用することになりそうであるが、「インバウンド誘客」のみがチャレンジのみでは無いので。現行計画全体を見直ししながら進めていきたい。(委員)

3. その他

事務局(市)より伊勢市観光客実態調査第1期速報について、新たなWEB調査の実施について説明。

○市の最上位計画があり、本計画を整えるという考えで良いのか。(委員)

⇒そのとおりと考えている。関連計画についても情報を添えながら整合性を合わせていく(市)

観光地経営戦略プランについて

・伊勢市観光協会にて伊勢市における観光地経営戦略プランを策定している。具体的にDMOが何をするのかという計画になる予定。観光協会の会員には内容確認をしながら進めており、参考までご確認いただければと思う。(委員)

4. 閉会

- 10月中旬以降に計画案初稿を委員に事前送付。
- 第3回推進委員会は11月下旬頃を予定。

(以上)